

米大学 野球留学の道

vol.2

College Baseball
in the USA



環境と野球英語に慣れれば通用する

Profile ● 上野大輝 (うえの・だいき) 1990年5月17日、群馬県館林市出身。20歳。館林四中の軟式野球部で本格的に野球を始める。大田市商では1年秋に左翼のレギュラーをつかむ。2年春は1番・遊撃で関東優勝、関東大会出場。3年夏は左翼手で県16強。昨年2月に米2年制大4校のトライアウトにすべて合格。二塁、遊撃をこなす。176cm、77kg。右投左打

解説 ESLとは、日本人など母国語が英語ではない留学生が英語力を高めるコース。TOEFLの得点を上げて、全学生対象の講義を受け単位を取得すること、または4年制大学に編入することを目指す。

ESLとは、日本人など母国語が英語ではない留学生が英語力を高めるコース。TOEFLの得点を上げて、全学生対象の講義を受け単位を取得すること、または4年制大学に編入することを目指す。

エスタンの学生寮に入りました。2人1部屋で、私のルームメイトは日本から一緒にトライアウトを受けて合格したK君。部屋にはエアコンが備え付けでしたが、テレビはなし。布団、シーツ、枕は現地で買いました。バスルーム(シャワーとトイレ)は2部屋(4人)で共用。ノートパソコンを持ち込みましたが、予想外にネット環境は良くありません。食事は、学生食堂で1日3食しなければなりません。ハンバーガー、ピザ、サンドイッチに、朝はスクランブルエッグとベーコン、昼と夜は日替わりプレートがあります。レパートリーが少なすぎてライスはもちろんパスタもなく、すぐに飽きてしまうので食生活に慣れるのは大変です。



語学学校に通う上野さんがトレーニングしたウエストバージニア大レクリエーションセンターのジム

講義は「第2言語としての英語(ESL)」という英語が母国語でない留学生向けのコースを受講。リーディング、ライティング、リスニング、会話など午前中2コマ、午後1コマ受けますが、ついていくのに必死です。小テストと宿題が多く、先生に電話して留守番電話に向かっている指定の文章を読むという課題もありました。講義に加えて部活で体育の単位が取れます。私の場合は野球部の練習、フルトレ、ウエートトレが対象になりました。

解説 練習や試合で実際に使われる主な野球英語の例。「stay」=「待て(打つな)」。「pull」=「引っ張り」。「opposite」=「反対側」。「take off」=「走り(盗塁しろ)」。「play in」=「前守備」。「cut two」=「(中継プレーで)カットして二塁に投げる」。機会があれば、もっと紹介しましょう。



アリゾナ・ウエスタン大もキャンパス内に専用球場と学生寮がある環境

米大学野球留学に関する問い合わせは、TEL.03(3230)0036 アスリートブランドジャパン株式会社 (<http://www.athlete-brand.com/>)へ

慣れれば通用する

解説 ウェストバージニア大にも野球部はあるが、語学学校の生徒はウェストバージニア大生ではないため入部できない。ウェストバージニア大に合格していても入学前には合流できない。シーズン終了から新年度が始まるまでは大学の野球部として活動できないため、学生たちはサマーリーグでプレーする。サマーリーグとは、地域の自治体や商工会、企業などの主催により全米各地で開催される夏限定のリーグ。西海岸だけでも太平洋リーグ、西海岸リーグ、カリフォルニア学生リーグなどがあり、それぞれ10チーム前後が結成される。約2か月間で1チーム40~50試合(ホームアンドアウェイ)を戦う。日本からの野球留学生には、大学入学前に語学学校に通いながらサマーリーグでプレーすることを勧めている。実際に米国野球が体験でき、生の野球英語にも慣れられるため、入部前の準備としては最適。サマーリーグ参加費用は滞在費、遠征費を含め約5000ドル。(約50万円=米国への送金費、語学学校の学費は別)

3月に高校を卒業した後、1日も早く大学のチームで練習したかったのですが、ルール上、8月に入学するまで合流できませんでした。そこで6月に渡米し、まずウエストバージニア大付属の語学学校に通いました。ホームステイをして、平日は午前9時から午後3時まで文法や英会話などの授業。終わると大学のレクリエーションセンターのジムやプールでトレーニング。土日、そこに行きました。しかし、野球をする環境がなく、キャッチボールしかできなかったのが少し不安でした。約1か月半だったので英語の上達はあまり実感できませんでした。しかし、ホストファミリーや学生らと接したり、バスに乗ったり、街を歩いたりして、米国の生活環境には少し慣れることができました。8月にユマへ移動し、アリゾナ・

解説 ウェストバージニア大付属の語学学校に2か月間通った場合、学費が1600ドル。(約16万円)。ホームステイ費用は1100ドル。(約11万円)。どちらも米国では平均的な額。

解説 米国の大学野球はシーズンが5月、遅くとも6月中旬に終了。その後は8月または9月に新年度が始まるまで野球部としての活動ができない規定になっている。

指示が聞き取れない
野球部員は36人でスタートしました。メキシコとの国境が近く、米国人とメキシコ人が半々ぐらい。約3か月で翌年1月下旬から始まるリーグ戦に出場できるロースター24人に絞り込まれます。3週目から5月・火は練習、水・木は紅白戦、金は調整、土・日は練習試合のスケジュールになり、本格的にサバイバルレースが始まりました。まず、練習のペースに慣れるのに苦労しました。時間は午後2時から6時。ウォーミングアップが短く、体操をほとんどしないので、けが防止に早くグラウンドに行くとアツ前にストレッチをするようにしました。守備練習は、試合前日以外は内外野に分かれて行い、人数が少ないこともあってノックを受ける機会は多かったです。しかし、打撃練習は短く、フリー打撃でも

解説 ロースターに残れなかった者はリーグ戦に出られないだけでなく、アリゾナ・ウエスタン大など多くは年度内の野球部員としての活動ができなくなる(練習生として部に残れる大学もある)。学校には残れるため、次年度はロースター入りをかけて再挑戦できる。

どこで 野球を つづける?

how to keep playing baseball

「米大学留学への道」第2回は、トライアウトに合格して昨年9月に米アリゾナ州ユマにあるコミュニティー・カレッジ(2年制の公立大学)のアリゾナ・ウエスタン大に入学した上野大輝さん(20)が、部活動、講義、寮生活などを紹介。補足説明は今回も、スポーツ留学をサポートするアスリートブランドジャパン社の根本真吾代表にお願いした。



中南米やアジアなどからの留学生も多く暮らすアリゾナ・ウエスタン大の学生寮

言葉の壁に苦戦しながらも上野さん(右から2人目)はロースター入りを目指して奮闘

